アジアユース大会の優勝に貢献

●鷹巣南中学校中田選手

第9回アジアユース女子バレーボール選手権大会に全日本メンバーとして出場し優勝した鷹巣南中学校（柴田保校長・生徒数134人）3年の中田紫乃（しの）さんが10月29日、市役所を訪れ、津谷市長に大会結果を報告しました。

同大会は、10月12日から20日まで、中国で開催され、アジア圏から13カ国の代表チームが出場しました。

全日本メンバー12人中11人は高校生で、中田さんは唯一の中学生選手。全試合でスターティングメンバーとしてコートに立ち、日本の優勝に大きく貢献しました。中田さんは「来年の世界選手権にも出られるように更に練習をがんばりたい。将来は、プロの選手になって全日本に入りたい」などと抱負を述べました。

▲津谷市長へアジアユース大会優勝の報告をする中田紫乃選手と三澤恵子監督

偉大な音楽家の名曲を歌い継ぐ

●第７回浜辺の歌音楽祭

第7回浜辺の歌音楽祭（加賀隆寛・実行委員長）が11月3日、北秋田市文化会館で開催され、成田為三の楽曲や趣向を凝らした合唱曲を披露し、美しい歌声を響かせました。

同音楽祭は、「浜辺の歌」をはじめ、優れた童謡や歌曲などを数多く作曲し、日本を代表する作曲家として知られる米内沢出身の成田為三を顕彰するとともに、歌声のあふれる活気あるまちづくりにつなげることを目的として開催しています。

今年の音楽祭には、保育園児、小中学生、一般のコーラスグループなど22団体から約740人が出演しました。会場には子どもらしい元気あふれる歌声や、心をひとつにした美しいハーモニーが響き渡りました。

▲オープニングを飾った女声合唱団コール・もりよしの皆さん

出店・ダンス・ライブでにぎわいを

●合川駅秋まつり

「合川駅秋まつり」が11月10日、合川駅前広場で行われ、出店やアトラクションに大勢の人が訪れにぎわいました。

このまつりは、合川の街、人の魅力を伝えると共に、内陸線が地域をつなぐマイレール・マイステーションとして愛されるように合川駅前地域活性化協議会（船木征次会長）が開催したもの。

会場には内陸線の魅力をパネルや写真で紹介するコーナーが設けられたほか、野菜やなめこ、バター餅の直売、鮎の塩焼き、馬肉の煮込み、だまこ鍋等の出店も並びました。アトラクションでは、「森吉キッズ」によるダンスやシンガーソングライターの本城奈々さんのミニライブ、バター餅の餅まきなどが行われ会場を盛り上げました。

▲軽快なダンスを披露し会場を盛り上げた「森吉キッズ」

「肉巻きキリタンポ」が優秀賞

●秋田北鷹高校「うまいもん甲子園」に出場

「ご当地！絶品うまいもん甲子園」に出場し、優秀賞などを受賞した秋田北鷹高校（佐藤英樹校長、生徒数764人）の生物資源科水田専攻の3年生4人が11月12日、市役所を訪れ、津谷市長に受賞を報告しました。

同大会は、農林水産省が主催する「食と農林漁業の祭典」の一環として初めて企画され、11月2日、3日に東京・銀座とJR有楽町駅前広場で開かれました。

東北代表として出場した同校は、キリタンポに豚バラ肉を巻き、醤油やタマネギ、リンゴなどをブレンドしたタレを塗りオーブンで焼いた「ポークンロール肉巻きキリタンポ」を出品し、審査の結果『東北エリア優秀賞』と特別賞にあたる『トリコ賞』を受賞しました。

▲報告に訪れた（左から）川村裕太（ゆうた）さん、相馬奏（かなた）さん、下山遥（はるか）さん、藤田みらいさん

チャレンジすることの大切さ学ぶ

●ノーザンハピネッツが来校

秋田ノーザンハピネッツの小学校訪問事業が11月7日、合川小学校（三浦栄一校長、児童数74人）で行われ、プロバスケットボール選手と児童が交流しました。

この事業は、スポーツの楽しさや興味、意欲を引き出すことを目的に秋田プロバスケットボールクラブ㈱と県が行っているものです。

今回訪問したのは今シーズンから同チームでプレーしている加藤真選手。加藤選手は、児童からの質問に答えたり、ドリブルやパスを披露したりしながら、チャレンジすることの大切さなどを児童に話しました。また、リクエストに応え、豪快なダンクシュートを見せると、児童から大きな歓声が上がりました。

▲秋田ノーザンハピネッツの加藤真選手を拍手で迎える合川小学校の児童

ナメコは「ヌルヌルして冷たい」

●米内沢小学校ナメコの収穫体験授業

米内沢小学校（伊藤康栄校長、児童数145人）のナメコの収穫体験授業が11月1日、米内沢字滝ノ沢地内で行われ、5年生29人がナメコの収穫を行いました。

この体験授業は、森吉林業研究会（武石篤正会長、会員20人）が森林や林業の持つ魅力や役割を子どもたちに伝えるため、秋田県の「水と森づくり税」の補助事業を活用し行っているものです。

今回収穫するのは、平成23年4月に同児童らが植菌をしたほだ木。児童らは、同研究会の会員から「かさを引っ張るのではなく、根元をつまむとうまく採れます」などと教えてもらいながら、「ヌルヌルして冷たい」などと声を上げ、素手で一つ一つていねいに採り、ビニール袋に入れて収穫しました。

▲ナメコの収穫体験授業を行う米内沢小学校５年の児童